地歴公民(地理)　立命館大学　全学統一方式（２／２実施）　１／２

＜全体分析＞

試験時間　80　分

解答形式

選択式・記述式・論述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問３題で，問題の分量は解答個数でみると 49 と昨年度の 53 よりやや少ないが，Ⅰの地形図の読図では細かい読み取りを必要とする問題や論述式問題もあり，時間を要する問題が多かった。難易は，教科書に準拠したレベルの問題が多い一方で，細かい知識を問う問題もあり，Ⅱの地誌では中央アジアとカフカス地方という受験生にとって対策が及びづらいと思われる地域が出題されたこともあり，昨年度と比べやや難化したといえる。

出題の特徴や昨年との変更点

地図やリード文を冒頭に掲げ，空欄補充や単答式（選択式・記述式）で地名や用語を問う形式が中心だが，論述式が出題されることもあり，本年度も出題された。例年，どの大問にも図表が使用され，地図とそれに関連するものが多く，統計表は簡易な構成で利用頻度も少ないが，本年度はⅢで統計表が多用された。地形図の読図問題は毎年全５日程のうち 1～2 日程で出題されている（どの日程で出題されるかは，年度により異なる）。

その他トピックス

特になし

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	選択式 記述式 論述式	地形図の読図	5 万分の 1 地形図（「立山」）・地形断面図・鳥瞰図使用。地形図に関連する基本事項，地形図の読み取り，地図記号の名称や役割，圏谷（カール）の成因，鳥瞰図判定などが問われた。地形断面や標高，傾斜，集水範囲など，読み取りに時間を要する問題が多いうえ，〔7〕の電子基準点による位置の測定方法についての論述問題も含まれ，全体的にやや難しい。	やや難
Ⅱ	選択式 記述式	中央アジアとカフカス地方の地誌	地図・リード文・統計表・衛星画像・雨温図を使用。中央アジアとカフカス地方における地名や地理用語に関する空欄補充問題，家畜頭数，ブドウ関連の統計，気候などが問われた。十分な学習が及びにくい地域であるうえ，〔4〕(2)のウズベキスタンからの生鮮ブドウ，干しブドウ，ワインの輸出先を問うた統計問題や，〔5〕(1)のタシケント市街地の衛星画像を判定する問題などの難問もあり，Ⅰと同様に平均点は低いと思われる。	やや難
Ⅲ	選択式 記述式	国際的な人の移動	リード文・統計表使用。難民，留学生，旅行者，移民に関連するリード文と統計表をもとに，用語や民族名，宗教名，国名判定などが問われた。選択肢がないなど，ヒントが少ない〔4〕の国名判定は難しいが，その一方でリード文中のヒント，1 人当たり名目 GNI や人口密度といったヒントが多い〔2〕や〔5〕は，答えやすかったのではないかと思われる。	やや難

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2024 年

＜学習対策＞

まずはテキストや参考書を使って，系統地理分野，地誌分野ともにバランス良く学習し，基本的な知識・理解の定着を図ろう。その際，本大学で出題が多い，地図中の地名等を答えさせる問題，農業，鉱工業，人口，都市などに関する基本統計を使った問題，教科書の記述に依拠した問題，に対応するため，地図帳，統計集，教科書を併用した学習を心がけよう。具体的には，常に地図帳を備え，知らない地名があった時にすぐに確認すること（あわせて白地図に主要な地名や都市名などをまとめるのも良い），また，統計集を使って主要な統計を繰り返し暗記していくこと，さらに，テキストや参考書を使った基本事項の整理を進めつつ，各単元の学習が終わるたびに教科書の該当範囲の記述を読んでいくこと（特に太字部分にはやはり注意），などの対策が挙げられよう。

一定量の知識・理解を得た後は必ず問題演習にも取り組もう。特に本大学の過去問演習は必須で，本大学の形式や難易度，時間配分等に慣れておくことは，その後の学習の効率を高める上でも重要である。手に入るだけの年次分は全て解き切りたい。その他，本大学で頻出の地形図読図問題への対策として，上記の過去問演習などを通じてできるだけ多くの地形図に触れるようにしよう。地形図の読図にはやはり一定の慣れが必要となる。また，論述式問題への対策も忘れないように。基本事項の学習を進めながら，地理用語や事象について短文（20～30 字程度）で説明できるか，その都度確認してみよう。その際にもやはり教科書の記述は参考になる。

© 河合塾　2024 年